

亀岡市プラごみ研修と市内見学会 報告

文責：松村順子

1. 日時：2023 年 2 月 16 日(木) 8 時 30 分（京都駅集合）～17 時（京都駅解散） 参加：4 名

2. 亀岡市・研修

「プラスチックごみゼロに挑戦する亀岡市の取り組み」

講師：亀岡市職員 3 名 会場：市役所地下 1F 「開かれたアトリエ」

内容概略 ～霧のまち「かめおか」

～なぜ、いま、「プラごみゼロ」をめざすのか

～2030 年にむけた～私たちの取組～

～未来への挑戦

① たった二人の保津川下りの船頭から始まった「環境先進都市・亀岡市」への一歩

「プラごみゼロ」をめざすきっかけは、船頭さんと市民活動から始まった。

河川ごみ漂流状況モニタリング調査を実施、川ごみが大阪湾まで 1 日で到着すると確認。

2012 年「海ごみサミット亀岡保津川会議」を開催し、流域からのごみ発生抑制を検討。

② 2018 年、全国に先駆けて「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」

・自然環境保全と地域経済の活性化に一体的に取り組む「環境先進都市」を実現し、

2023 年までに使い捨てプラスチックゼロのまち、エコバック持参率 100%などの目標を宣言

③ 2020 年 3 月、「亀岡市プラスチック製レジ袋提供禁止に関する条例」を制定

・2019 年、スーパーコンビニ・35 団体の参画によるかめおか協議会を設立。

プラレジ袋提供禁止条例にむけた幅広い議論と啓発。市民の意識調査と説明会を 28 会場で実施。

・プラ製レジ袋提供禁止実行のため「亀岡 100 人会議」開催。ロゴマーク決定から地域ブランドの向上と亀岡のポテンシャルの向上へ。

・亀岡の特長づくり・・・環境と芸術のコラボによるエコバックやブランドロゴ入り紙袋製作など

・2021 年、プラ製レジ袋提供禁止条例施行と違反者の氏名公表施行

◎エコバック持参率 98.2%。ポイ捨てされるごみの中のレジ袋の 6 分の 1 に。

④ 2030 年にむけた企業との連携拡充・・・企業との協定で環境教育、資源回収、様々な取組促進

・おいしい水プロジェクトによりマイボトル普及と給水スポット協力店の拡大現在 53 か所に。

⑤ ポイ捨て禁止にむけた取組

・エコウォーカーとエコウォーカーキッズ・チャレンジプログラム（市民によるごみ拾い活動）

・2020 年、ポイ捨て等禁止条例

・2022 年、ポイ捨てごみゼロプロジェクト・・・西日本初の IoT ごみ箱の設置

3, 亀岡市内探訪

市役所から亀岡城を眺めつつ、市内のまちあるきをし、プラごみゼロの取り組みの現状を知った。

① プラ製レジ袋提供禁止の現状把握・・スーパーマツモト荒塚店、イオン亀岡店

プラ製レジ袋の代替に提供するために事業者と行政の共同事業として製作されたロゴ入りの紙製バックはおしゃれな作りのもので、好評だったことがうかがえた。残念なことに助成金事業の期限がすでにきれているために残数はほとんどない。スーパーでは、すでにロゴなしの無地紙袋に入れ替わっていた。取組の結果としてマイバック持参率が高いことから、無地の紙袋はほとんど売れないようだ。私たちは、見学の最後に、駅構内のコンビニにロゴ入り紙袋が1枚残っているとの情報をもらい、運よく土産として購入することができた。

② 給水スポット・リバーフレンドリーレストランプロジェクト体験・・レストラン・アムール

現在22店舗ある登録店の中の1店舗に立ち寄って、給水をお願いした。閉店時間中にもかかわらず、見学者であることを説明すると快く持参のマイボトルに給水していただいた。亀岡の水は地下水が原水であるためとても美味しい。協力店舗は認定基準を満たした店舗では、登録サインとしてオーガニックコットンに藍染の目印となるフラッグが店頭に掲げられていた。

また、「かめおか未来づくり環境パートナーシップ協定」により DESIGN WORKS ANCIENT との締結により寄贈された水筒「ポケットルS」を、アムールのオーナーが3本ほどお土産にと渡してくださった。研修の画面で見えてきたばかりの可愛い水筒に、疲れも吹き飛ばす嬉しさだった。

給水スポットは、アプリ「mymizu」にも登録され、観光客へも使い捨て改革が啓発されている。

③ 市内のポイ捨てごみの現状見学・・・エコウォーカー制度などの取組

メンバー全員が駅から市内をまちあるきの第一印象は、ポイ捨てごみが全くないことだった。

街路樹の下の植え込みや道路横、側溝にもごみがみられないことに驚いた。「人がいるところには、必ずポイ捨てされたプラごみやタバコの吸い殻が溜っていて街中にはごみがあって当然」に、私たちは慣れてしまっている。不思議と可笑しい感覚にきずかされた。亀岡市で実施されてきた「エコウォーカー制度」では、散歩しながらごみをひろうという身近で気軽な感覚の清掃活動が、普及しているようだ。キッズ対象にも市内の全幼稚園・保育所の年長組からのゴミ拾い体験をさせ、幼児期から環境保全意識の育成に力をいれていることも大きいという。担当者によると「小さい頃からゴミ拾いの清掃活動を体験している子は、ごみをポイ捨てしなくなる」そうだ。

さらに、タバコのポイ捨て防止についても、重点地域を指定して路上での喫煙禁止するなどの徹底した取組がある。事実として、亀岡市内探訪中に、私たちは一本の吸い殻にも出会っていない。

また、美しいまちづくりのモットーを掲げるだけではなく、企業との連携とパートナーシップにより新感覚のごみ箱への期待も感じることもできた。

④ SDGs モデル事業「開かれたアトリエ」・・研修会場はこの一角で。

土日祝も誰でもが自由に利用可能なスペース。明るい雰囲気の中機能空間になっている。会議や研修会場として、市民交流、ワークショップ会場、サークル活動の拠点、展示会場にも使える。地産地消の野菜などの食材をつかったメニューを提供するレストランも併設されて、昼食時はかなり賑わっていた。無料のサイドメニューやデザートなどのサービスなど好印象だった。私たちは研修終了後、ミーティングも昼食もここでとり、快適な時間を「開かれたアトリエ」で過ごすことができた。

5. 感想

- ・ 亀岡市のプラごみゼロの取組のきっかけが、保津川の川ごみをなんとかしようという船頭さんと市民活動だったことに、感銘し共感を覚えた。
- ・ 市民への啓発のための説明会の回数やアンケート調査など、理解と合意形成のための徹底した行政主導による取り組みは見習って大津市でも実現できたらと思う。
- ・ 「ごみを拾って子どもは、ごみを捨てなくなる」という環境教育への確信を知った。
- ・ 2030に向けた、政府より早い動きと県内の様々な企業との連携・パートナーシップ条約もすごい。技術とお金の提供は企業が、啓発と教育は行政と、担う役割が明確に分かった。
- ・ 亀岡市のまちは、ポイ捨てごみがない。プラごみゼロ宣言の結果ではなく、使い捨て意識もなくするための教育による成果ではないか。ポイ捨てゼロも可能だと思える。
- ・ アートと環境のコラボ、技術と斬新なアイデアなど、若い感覚がいっぱいで期待ができる。
- ・ 地理的条件、観光資源も活かし、循環経済が成り立っていることがわかった。
- ・ この研修で、プラごみ削減のためには、自治体の方針、政策、視点は何か、市民の合意、企業との連携による経済性が重要だということ、きっかけと推進力が必要であると学ぶことができた。

6. 記録写真（撮影した写真の中から、紙面の都合にて抜粋）



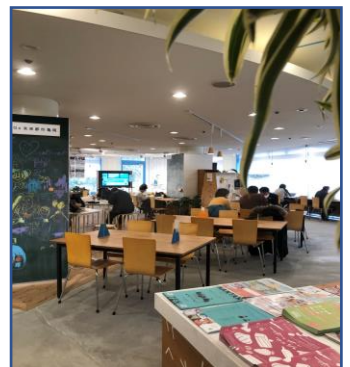
亀岡市役所入り口のロゴ



プラごみゼロ宣言フラッグ



研修の様子



開かれたアトリエ・交流空間



紙製ブランドエコバッグ



ロゴなしの紙バック



給水スポット（市内22箇所）



給水スポットの登録店



ポイ捨て禁止重点区域表示



古い紙バックの回収箱



亀岡駅構内で記念撮影



サンガスタジアム